

# ビジネス英語絶妙な単語の使い方

By ユキーナ・富塚・サントス

1	It is not fair 「とにかく、むかつく」 .....	2
2	It is not fairの回答例 1 I agree- 勝手に言ってる-.....	6
3	It is not fairの回答例 2 You should prove it -痛くもかゆくも無い-.....	7
4	It is not fairの回答例 3 I will think about it 盗人にも 3分の理 .....	8
5	イギリス英語と田中邦衛.....	9
6	Explicitあからさまなり .....	11

最初に、このコラムでは実際英語の中に身を浸して、日本語で言いたいことは英語でこういうのかという表現集を載せていく。（初回からやや焦点がずれるが、英和から）

## 1 It is not fair 「とにかく、むかつく」

私はこの言葉を3回違ったシチュエーションで聞いた。そしてこの和訳を提案したい。これまでの私の理解であった fair の意味「秤の両側がつりあう公平な状況、否定形は不公平」と、何がどう違うのかを例を使って説明したい。

### 例その1

エレナの言った話

キツネ女の卒業生エボラの事務所に向かうトラムの中で、エレナが泣きそうになる。「ユキ、どの会社も私に夏のインターンの仕事はくれない。イタリア人であれば、私より実務経験の無い奴がどんどんいろんな会社から声をかけられているのに、私は悔しい。3カ国語もしゃべれるのに・・・」

そして、こう付け加えた「It is not fair」と

これは通常、全く公平を欠いている。不公平だという言葉に使われる。しかし、実際の使われ方を今一度考えてみたい。果たして本当に不公平かを。まず、彼女の仕事のできなさというのは論外にしておいて（履歴書を送って誰も面接の通知をくれないというのであるから、誰も彼女の立派な履歴書に興味を示さないのである。面接でその無能さを見抜かれてのことではない。）

ここで、議論しているのは彼女が履歴書を送りつけた会社が、彼女を選んでいないという事実である。彼女が就労ビザが無いから、ロシア人だから、コンサル業の経験が無いから、理由はいろいろであろうが、大切なのは私人が私人を雇用という点で差別しているのである。日本でも多々問題はあったが、企業には利潤追求という目的があり、それに照らして考えれば、戦略上特定の私人を雇用するのは極めて当たり前のことなのである。ロシアがあらゆる移民を受け入れ、ロシアのあらゆる企業がどの国の民にも等しく雇用の機会を与えているというのなら、ロシア人として彼女が不公平を訴えるのはわかる、しかしそんなことは現実にやっていないではなか。

それでは彼女は何を不公平と言っているのか。答えは、はかりの片端に自分の利益を、もう片方にこれも自分の都合で持ってきたイタリアはじめヨーロッパの大企業を乗せて、後者が重くてつりあわないと天秤を叩いて怒っているのである。申し訳ないが、サルでもこんなことはしない。この状況を描写する **fair** の適切な訳は「(思いどおりにならないから)、とにかくムカツク。」である。

### It is not fair 例その2

#### ジョバンニの使った言葉

私が、ほぼ徹夜で管理会計の宿題を仕上げ、最初の授業をサボって、プレゼンの準備を終了した後、同じグループのジョバンニが私に言った。ユキ、俺は甚だ気分が悪い、**It is not fair** と。彼が言っているのは、私が質問に対する答えに該当するスライドを作り、それをプレゼン用ファイルに挿入して、その事実を彼に語らなかったことである。「これはグループワークだ、もし、これが間違っていたらどうする？このスライドを入れるなんて、昨日の夜では話し合っていないじゃないか、さっき俺とタメリック（他のグループメイト）で見つけて削除して、修正版を先生提出したんだ。」

申し訳ないが、誰もできなかったこの宿題を **PP** ファイルベースですべて仕上げていたのは私である。昨夜はグループワークの最後に私の作った **PP** ファイルを奴に送ったが、ジョバンニが全部チェックしきれず、最初の数枚だけを付け加えて俺は腹が減ったと切り上げたのではないかと聞かれている質問にすら答えないから、この穴だらけのファイルを徹夜で加工したのである。早朝全員に送りつけ、一緒にプレゼンをやることになっていたジョバンニにも伝えなければならないと、奴を教室前で捕まえようと待っていたのである。イタリア人ペースで遅れてきた彼にとやかく言う権利などないのである。

この「奇遇だな。私も甚だ気分がわるいよ。」という内容を自分の英語で伝えながら、私は続ける。あなたが言っているのは方法論だ、過程に問題があり、宿題を作業してから提出するまでの経過が気に入らないと言っている。私は、中身を問題にしている。聞かれた答えにきちんと答えていないから答えを付け加えたまでのことだ。多少内容がバツティングしていたにしても、あんたが間違いだと思う項目を含んでいても。時間の制約のある中で、過程に重きを置くのか、内容に重きを置くのか、個人の価値観

が違うだろう。グループで統一した優先順位が決められていない以上、ここでの議論には意味が無いではないか。案フェアと言うのはいかがなものか？

さらに、さらに、百歩譲って、手続きだけを問題にしたとしても、私は内容を変えたが、提出はしなかった。全員の合意は得ていないからである。ところが、お前は合っている部分（私がテキストから表現をコピーした部分）を削り、自分の答えを付け加えて、私の了解も取らないうちから先生に送っておきながら、自分のしたことを棚に上げ、私のことを、はなはだフェアじゃないと言っている。手続きの問題だけを取り上げて、そちらの方がアンフェアではないか。

こういったところで、奴は若干ひるんだが（この議論のすぐ後ジョバンニは修正版を再度教授に送っている）、ユキは俺の言うことを完全に理解していないと私の英語理解能力の問題にすりかえようとした。

私としては、あんたさえ良ければ、喜んで議論に付き合おう。と切り返すが、奴からはとにかくフェアではないという答えしかかえってこなかった。ここにおいて、公平をよくよく考えてみる。ジョバンニは秤の片側に自分の手続き論を載せた。私が乗せた内容論よりも自分の方が思いと信じていたが、相手の方が重そうなので、イタリア人特有のずるがしこさで、自分の重りの質自体を比重の大きいものに変えようとしたが、それでも相手の方が重そうなので、私の側の天秤皿をひっくり返して怒っているのである。

この状況で **fair** を訳してみると「（自分の地位を逆転されそうで）、ムカつく」である。ドラえもんでジャイアンが「のび太のくせに生意気だー」と言って暴れるのと全く同じである。

このフェアの議論は国家間問題に続く・・・

### It is not fair 例その3

アメリカが日本に言った言葉 **It is not fair** -とにかくお前が悪い-

「日本人は頭がいい」といわれる理由は、1 漢字を使う、2 お箸を使う、3 九九を覚えている、だと中学1年のときの担任の先生が言った。折に触れてこのことを思い出

すが、海外で勉強していると上記3については本当だなあと思うことが多い。アメリカ人をはじめ外人は九九を覚えてないから単純な算数を MATH と呼び、苦手を感じている人が多い。これに関連してフェアとアンフェアの議論を展開する。

FMI（金融業界総論）という授業の中でチャールズ銀行出身の教授が語った。80年代後半世界中の大銀行ランキングのうち、1位から9位まではある国の銀行で占められていた。それはどこか、と。ロシア？と答えて笑いを取った生徒がいたが、答えは日本である。アメリカはこれに対して不平を言った。日本の銀行は最低資本を充足させねばならないという金融機関の基準がない、株主から何も責められる必要がない。It's not fair と。

これを聞いたとたん、私は「ケッ、カツォ!!」とイタリア語のスラングをつい口走ってしまった。ここにいると本当に品が悪くなって困る。必要最低資本の背景、この原因、影響、効果等を一切考慮外として考察すれば、日本人が金融など高度に数学的な技術を必要とする分野を含む産業で比較優位を発揮し、マーケットシェアを拡大していくのは、自由競争下では理にかなった、甚だ公平な態度である。その結果世界規模でみた市場を独占しようと不公平を責められるいわれは全くないのだ。数学が得意な日本人がすごい勢いで金融業界に進出してきている、このままでいったら、独占されるまでどのくらい時間がかかるだろうかと、アメリカがちんたらと指折り数えている間に、市場を取られてしまっただけの話である。悔しかったら、九九ぐらい覚えてから文句を言えと、私は机の下で拳を握りしめたのであった。

我々日本が最低資本充実の原則をアメリカに押し付け、我々日本はこれを守らないで、数学ができるのをいいことに市場を独占したというのなら、これは不公平を訴えられる原因であろう。が、しかし株主のために会社が存在するというシステムを作り上げ、そこで機能するルールを作り上げたのはアメリカである。自分の勝手に作り上げたものを、よその国に押し付けることができないからと言って文句を言うのはちゃんちゃら可笑しいのである。

コーラとファーストフードで肥大した体で、秤の片側に乗ったら目盛り自体が壊れてしまった。同じ程度の重さのものを載せれば目盛りも直るだろうと、他の国に、お前もハンバーガーを食えと脅しているのである。おそらく、糖尿と心臓病がひどくなれば、お前もサプリメントを飲めと強要し、足腰が悪くなれば、お前もジムに通えと強

要するのだろう。この国が自由の女神を国のシンボルに掲げているのが何とも滑稽なのだ。

少々話がそれたが、ここで若干これまでと違う訳を試みたい。本件に関しては、これまでの「とにかくムカつく」という要素は弱い。感情論ではなく、根拠の無い是非のコメントである。「とにかくお前が悪い」と。目盛りが壊れるほど太ってしまった理由を自分の側に求めるのではなく、秤という自然の摂理を凶る尺度が機能しないのを見ながら、これは秤の反対側の皿に載せるものが間違っていると信じて疑わないのである。

感情は時間と共に変化する、怒りもいずれは和らぐ。しかし、この場合は是非かの信念から出ている分始末が悪いのだ。しかもこの信念には「是」しかなく、「非」は永遠に日の目を見ないのである。繰り返しになるが、常に是としている根拠は無い、したがって、この場合の *It's not fair* の適切な和訳は「とにかくお前が悪い」である。国と国というマクロの視点で見ても、子供の喧嘩で言い返せなくなった子供が「やーい、お前のかあちゃんべそ」と何の効果も無い反撃をこころみるのと、幼稚である点は大差がないのである。

では、この *It's not fair* をどう対処するかは次回考察する。

## 2 *It is not fair* の回答例 1 *I agree*- 勝手に言っろ-

*It is not fair* と言われた場合の、一番効果的な受け答えはこれである。もっとも、*fair* が自分以外の第三者に向けられている場合の話であるが。

エレナの場合を例に取れば、フェアでないのは、自分を選ばない会社である。聞いている側としては痛くもかゆくも無い。がしかし、天秤の両側を相手に認識させ不毛な議論をする必要も全くないので、ここにいたっては相手のムカつきを受け流せばいいのである。この右から左への受け答えは *I agree* であろう。自分に余裕があれば、*I totally agree* などと言って相手の不満を吐き出させることも可である。注意したいのは、この場合の *I agree* の訳は「君の言うとおりでよ。」ではなく、「勝手に言っろ」である。

何度も言うが、It is not fair は不公平だという訳は当てはまらない。なぜなら自ら、自分の力で、自分が不公平と感ずることを是正できるのであれば、彼らはとつくに力で是正しているはずだからである。自分に力がないことを認めたくないか、不公平ではないと認めたくないときに、このムカつきを fair を使って言い表しているのだ。解決のための方策も見つからないから、愚痴っているだけなのである。暇なら付き合ってもいいが、こちらも忙しい身なので、「勝手に言ってる」と早々に切り上げるに限る。

誰にとっても時間とエネルギーは貴重である。

では、この It is not fair が自分に向けられた場合はどうするか。

今回はこれを考察する。

### 3 It is not fair の回答例 2 You should prove it -痛くもかゆくも無い-

これまで3つの例を見た。日本人は「おまえはフェアでない」と言われると、何かとてつもなく悪いことをしたようで、直ちに己が非を考えてしまうが、落ち着いて考えることが必要である。はたして相手は何の条件もしくは仮定をもとに、何と何をはかりにかけて、公平ではないと、バランスが取れないといっているのか？いずれの例も感情論に基づく、もしくは根拠の無い是の押し付けである。しかも相手は理論的に自己の要求分析をしていないのである。

このような押し付けには相手に自分の要求分析をさせるに限る。まず、当方は落ち着き、I can see your point 「あなたの言うことはわかった。」と言って相手を一旦黙らせ、こう付け加えるのである。But you should prove it と。理論的に分析したら話ぐらひは聴いてやろうと相手を黙らせるのである。さらに大切なことは、こちらは何もしてはいけなひのだ。なぜなら、相手がいかに不平を訴えようとも、こちらは痛くもかゆくも無いのだから。自分が時間とエネルギーに余裕があれば、相手の持つてくる秤がそもそも水平な面に位置されているか、目盛りは狂っていないか、お皿は汚れていないか、などコメントを示してあげてもいいだろう。がしかし、相手が発しているのは感情論

である。どれほどムカついていようと、暴れまわろうと、こちらは痛くもかゆくも無いのである。真面目に取り合ってやる必要はゼロである。

あるいは、But の後に続けるフレーズとして、**You have to convince me** 「暇な時に聞いてやる」という回答例もある。何度も何度もいうが、相手は不公平を訴えているのではない。わがままをあたかも法律を述べるかの口調で言っているのである。思い通りにならない悔しさをぶつけているだけである。何もこちらがいちいち時間を割いて聞いてやる必要はないのだ。

これは、最も重要なことだが、これまで不満を述べた主体は、**It is not fair** と発した主体は、仮に自分がこの **not fair** を受ける目的の側であったら、間違いなく上記回答を使っているはずなのである。我々日本人が、彼らと同様の態度をとって何の非があろうか。少なくとも英和辞書の **fair** に公平と記載しているだけ、日本人は、はるかに良心的なのである。

#### 4 **It is not fair** の回答例 3 **I will think about it** 盗人にも 3 分の理

これまで **fair** は私が認識する真の公平、不公平を意味しないこと、これを真に受けないことを述べた。が、しかし、が、しかしである。

私はこの回答例を提示したい。**I will think about it** と言って相手の言い分に多少なりとも耳を傾けることである。エレナの要求はサル以下だが、ある程度東になれば、一定の企業には多少なりとも影響力はあるのである。また、エレナのサル並みのムカつきは巷にたくさん存在し、その程度によってはビジネスのチャンスともなりうるのである。

ジョバンニのムカつきも、これがビジネスであれば、私がどのような対応をとっておけばよかったのかを考えさせてくれるヒントになった。私にとっては奴のムカつきは重要だったのである。



アメリカの「是」の押し付けには根拠は無いが、彼らが、とにかくお前が悪いというところには多少なりとも我々が、自分たちを省みるヒントがある。素直に省みれば、奴らがムカつかずには、怒りを表さずにはいられなかった理由が見えてくる。これをどうとらえ、個人のため、社会のため、国のため、世界のためにはどうすればよいかを考えることが、日本という国の偉大な成長の原点であるように私には思える。なるほど、こちらもこういうところが悪かったのかと素直に認め、それをすぐに直してきたから、他の国には真似のできないような日本の繁栄があったのだ。

**I can see your point** あんたの言うことはわかった、（決して、**you are right** と言ってはいけない。）と言って、その後 **I will think about it.**と続け、相手の発言を自己の反省材料にしようではないか。この場合の適切な訳は猛々しい盗人ではあるが、「盗人にも3分の理」である。別の議論になりそうであるが、3分がポイントである。増長して5分、7分、全部を要求する相手には、時と場合に応じたピストルが必要になる。

間違いを改めるにはばかることなく、努力精進を続けてきた。これを日本の文化と呼ばずして、何と呼ぼうか。日本人が数学の問題で間違えるのは **dignity** (沽券) に関わるが、どんなに理不尽なことを突きつけられても、まず、自己を省みて、相手に対する敬意を失わないこともまた、日本人の誇り **dignity** (威厳) であると思はる。

以上で **It is not fair** に関する考察を終える。

## 5 イギリス英語と田中邦衛

私は物まねが上手いといわれる。これと言って秘訣はないが、思うに人様より若干聞くという能力に長けているのではないかと思う。人が語った言葉、発した音声をそのまま忠実に頭の中に記憶する。その音の響き、イントネーションを頭の中で再生してみ、その再生音を自分の口蓋に落としてくるのだ。

難しいようだけれども、慣れると以外に簡単で、実はこれが外国語上達の極意だと私は思っている。だから講師の口癖、アクセント、言葉の使い方はそっくりそのまま覚えてしまうのだ。したがって、外国語を学ぶときは、ネイティブ講師は気を使って選

ばなければならない。なにしろ、その人のイントネーションをそのまま引き継ぐわけだから、きれいな標準語がいいに越したことはないのだ。

話がそれだが、私はここに来て、イギリス英語の癖を身をもって知った。独特のイントネーションや言葉の使い方を文章で表現するのは難しい。が、敢えて日本語で表してみると、さながら田中邦衛がしゃべる日本語のようである。「上等じゃねえかよ、俺はよ・・・」と言うせりふを例にとる。この役者がしゃべると、音節でぶつぶつ分断され、抑揚が激しく、語尾がかすれるので「ジョッ、トゥ、ネック、ヒュー・・・アラアヒョー」と聞こえるのだ。カタカナ表記をしても、独特のリズムが表現できないのが残念だが・・・

フランス語というものは、自分が生まれたときから低血圧だと思い込み、へその力を抜いてけだるい雰囲気ですとそれっぽく聞こえると思うが、イギリス英語は自分が田中邦衛になりきってしゃべるとブリテッシュイングリッシュらしく聞こえるのではないか。たとえば「That's gonna be very tough.」という表現をイギリス英語で話すには、まず斜に構え、こめかみに血管が浮き出るほど力を入れ、「ザッ、ガビ、ヴェル、タッ」というと間違いなくイギリス人には通じる気がする。音節で区切り、抑揚を必要以上につけて、語尾を微妙にかすれさせるのがポイントである。

ここまで書いて、はっと、何のためにイギリス英語の訓練が必要なのか？と考へないでもないが、やがて芸が身を助ける日のために、無駄な努力を惜しまない人に向けて書いておく。

さて、典型的イギリス人のテスに、「あなたは、ヒュー・グラントに似ている」と言ったときのこと、このヤサ男の彼は、一瞬肩をすくめ、ポケットに手を突っ込み、斜に構えて、私にこういった。「ユキーン、いいかあ・・・、一言だけ言っておく・・・イギリス人ってやつあなあ、・・・ヒュー・グラントに似てるって言われんのがなあ・・・いっちゃんムカつくんだぜえ・・・」

しまった田中邦衛を怒らせた・・・笑顔を引きつらせ、ひたすら謝った私なのであった。

## 6 Explicit あからさまなり

Explicit という単語を訳すとしたら、「いみじくあからさまなり」とでも訳そうか。もちろん現代語と古文では「あからさま」の意味も違う。自分のうちに秘めて人には言わないことを、おそれを知らずガンガン口にしてしまうことを explicit と言う。

一般に無言のコミュニケーション tacit の対局に位置する言葉として explicit は存する。ストレスは内にためず、ある程度はいて吐き出したほうが良いといわれる。自分の内面を人にさらけ出すときにこの単語がつかわれるようである。

男女の色恋の深淵を描こうとすれば閨中に及ばざるをえない、とは芥川龍之介のエッセイであったように記憶している。プラトニックなままでは、いつまでたっても男女が越えなければならない一線が越えられないというのである。Explicit とは、本来描くのがためられる潤中のことについて、微に入り際に渡り？描いてしまう性質のことを言う。

わがクラスメートネロ様のアパートにグループワークで集まったときのこと。上の階には新婚の夫婦が住んでおり、彼らは explicit だと、いみじくあからさまだとネロ様が言った。神経質なネロ様としては、この夫婦の「階下に人無きが如し」の潤中の営みの表現には甚だ迷惑しているのだろう。

さて、explicit ということについて、かつて、私の英語の先生、ニュージーランド人ラッセルが私にこういった。「ユキ、驚いたよ。君が「山田詠美の小説が好きだ」といったときは・・・だって彼女は explicit で有名だから・・・」

私は詠美さんの作品を英文で読んだことは一度しかない。この英訳はそこそこ活かしてたと思うが、他の作品の英文がどれほど活かしているのか、推し量ることはできない。が、しかし言わせて頂けば、詠美さんの作品は explicit よりも implicit、せつないほど tacit であることも多いような気がする。

私が最初に彼女の作品を読んだのは13年前、図書館の中だったと思う。直木賞を受賞された「ソウルミュージック・ラヴァーズオンリー」の最後の作品「男が女を愛するとき」を読んだ。人目をはばからず、声をあげて泣いたのを覚えている。この小説は決してEXPLICITではなく、切ないほどIMPLICITとTACITに溢れているのに、私の感情は押さえがきかず、これとは裏腹にEXPLICITであった。

主人公のマンハッタンに住む画家はおそらく詠美さん自身だろう。スランプで、描けないプレッシャーにつぶされそうなとき、ある男がクリスマスカードを携えてたずねてくる。海辺のリゾートで、かつて一度しか会ったことのない男が。ご丁寧にカードには「あなたを愛しています。」とかかかれているのだ。

その後も繰り返しこの小説を読んだので、大方の表現は覚えてしまった。

キャンパスの前で放心状態でうずくまる彼女の傍らに、気付くとこの男（ウイリー・ロイ）が佇み、「描けないの・・・？可愛そうに、あなたはこんなに愛されているのに」とつぶやき、彼女を愛し始める。詠美さんのIMPLICITな表現が冴えるシーンである。

正確な引用ではないが、

「倒れたグラスからこぼれ、床に広がるワインは赤、彼の体から流れ落ちる汗は白、上気した私の吐息はロゼになる・・・」

ウイリー・ロイは終始彼女に語りかける、海辺にいた彼女がどれほどセクシーで魅力的であったか、自分がその時どう思ったか、彼女もまた、他人に普段、語ることの無い、創作の不安を彼にうちあける。

彼は彼女にこう言う。「僕は寝る女には不自由しなかったけど、愛する女にはずっと不自由していたんだ・・・」と。

まばゆい朝の光の中でウイリー・ロイは彼女のために朝食を準備し、パーシースレッジの曲をBGMに流したりする。彼に抱かれた後、この男に恋をしてしまったと気付く主人公が、こうつけくわえる。「ああ、そういえばこの曲は「男が女を愛するとき」というのだけ・・・」

これをどうして EXPLICIT と呼べるだろうか？究極に洗練された文学表現以外の何ものでもないような気がする。彼らが互いに触れ合うのはこれが最初で最後である。主人公の彼女は「それからの私はホント悲惨」というように、仕事も手付かず、彼のところにいっても、「仕事を早く片付けておいで」と相手にされず・・・であり、「決して落ちない女を口説くジゴロ」のように惨めなのである。

年上の女のプライドも捨てて、相手にされない切なさから、彼女がこうたずねる。

「どうして最初に私を抱いたの？あなたの体を知らずにいたら、これほど切なくなることはなかったわ・・・」

「愛することには、きっかけが必要だと思ったから・・・」

ウィリーロイの黒い真っ直ぐな瞳、ダイヤのピアスの輝きが目に浮かぶような美しいシーンである。すべての表現が、悲しいほど TACIT であるので、その奥の「本音」が、よりいっそう鮮やかになるのである。

彼女、山田詠美さんが名声を得るのもこの文学的才能ゆえである。「跪いて足をお舐め」では、直木賞受賞に至ったまでの経過、その後の反応などが書かれている。全身全霊かけて愛した「ろくでなし」と別れた後、みかん箱の上に原稿用紙をのせて、ハートを削るように、文章を書き出した彼女の潔さに私は敬服する。この潔さを理解できない輩が、真似したくても真似する度胸もない人々が、嫉妬ゆえに、彼女をただ explicit であるだけの作家と中傷するのではないか。

私もある意味、カジモドであり、過去も今現在も、既存のカテゴリーに落ちない、アウトロー的生活を送っている。故に、EXPLICIT って何のことかその意味もわからないわと言いながら、高みから人の EXPLICIT ぶりを執拗に眺め、好奇心を満たそうとする輩とは相容れないと思うことも多い。

この小説ではこうした輩のことにも触れている。「私は田舎の人々は好きだ。だが、都会に住む田舎者をひどく嫌う」と、「絶えずアップダウンを繰り返す人たち」とも言っている。世の中を上手く渡っていくには、もちろん人とあまり変わっていない方がいい。女性であれ男性であれ、ある既成の概念があり、それにピッタリと当てはまる形のほうが、世の中の流れに漂うには、波に乗るためには、はるかに楽である。

世の中には流れに逆らってでも、自分を通したい人間がいる。いや、むしろ、既存の型の中では生きられない、窒息してしまう魚と言ったほうがいいかもしれない。そうした魚は自分の存在を他に認めさせる必要がない。自分と同様に流れに逆らって泳ぐことを他に共用したりしない。ましてや自分の鱗を七色に光らせその存在を他に認めさせるような愚行をしない。

窒息せずに自由に泳げればそれでいいのである。ゆえにその存在の表現はアウトローであるがために、**implicit**にならざるを得ない。秘め事における真の価値を知り尽くしているからである。誇り高き人は、その身を飾る必要がないと熟知しているからである。人間としての品位が、どこで決まるかちゃんと知っているのである。

この意味から考えるなら、詠美さんの作品は切なくなるほど **IMPLICIT** であり、**TACIT** でいなければならぬ悲しさを秘めている。だからこそ、感情を表現する効果が高いのである。ちょうど文楽が、人形師や作者の気配を消すが故に、人形に感情を凝縮し、究極の形として表現するのと似ている。

故に、**EXPLICIT** とは、ある意味人間としての品位を言い表す言葉ではないかと思う。これもまた、相手の中傷せぬよう品位をもって表現すれば、「いみじくあからさまなり」とでも言うより他にない気がする。

ビジネス英語絶妙な単語の使い方

By ユキーナ・富塚・サントス